

1人1人の輝きと向き合う 輝きを持って次世代へ

◎『経験こそ力なり』

ビートルでの3年間の中で、当然サッカーが主体になりますが、その他様々な活動やイベントも実施します。その中で経験する全ての出来事、例えばゴールを決めた喜び、試合中に相手と喧嘩した、コーチに怒られた、怪我で1年間プレーができなかったなど様々なことを全て可能な限り前向きに捉え、長い人生のなかでの良き経験であると選手に伝えていきます。その様々な経験こそ自信に繋がり、明日に繋がり、将来に繋がると考えます。

◎『個のスキルアップを徹底し、将来を見据えた指導』

ボールを蹴る、止める、運ぶといった個人技術習得を徹底し、習慣化した上で選手自身が味方・相手の状況を観察しながらプレーを選択、判断ができるような指導を目指します。この中学生年代に時間をかけてじっくり体に染み込ませることで体得したものは財産として、今後一切揺るぐことなく選手自身のステップアップを手助けしてくれます。

◎『考えて、プレーを選べる自立した選手の育成』

グラウンドでプレーできるのは選手だけです。練習ではいろんな指示はできますが試合になれば制限されます。そこで必要なのは選手個人の『考える力』です。考える力とは試合中の劣勢時などに『どう打開するか』など、自分で考え、プレーを選べるような自立した選手の育成を目指します。そこで生じた失敗やもつとこうすればよかった・・・などの反省に対して助言やアドバイスする事こそ、指導だと考えます。この“自身で考えて判断し、プレーを選ぶ”ことこそ現代サッカーにおいて最も必要な能力とされています。

◎『努力の先に光』揺るがない心・技・体の獲得

前述のとおり試合では選手が主人公です。その中は選手の自由な場所ですが、逆に考えると、頼るものが自分のみであるといえます。自分を信じれないと積極的なプレーもできないしレベルアップにもつながりません。更には、試合になると様々なプレッシャーの中でプレーしなければなりません。その中で自信を持ってプレーするためには、普段の努力が必要不可欠になります。どんな相手にも奪われない、どんなときもシュートを決めるなど自分を信じる気持ちは練習、練習、練習。その努力の積み重ねが自信につながります。自分に自信がもてたときがレベルアップの時です。

やってみて失敗して。失敗して考えて。
考えて、練習して。またやってみる。